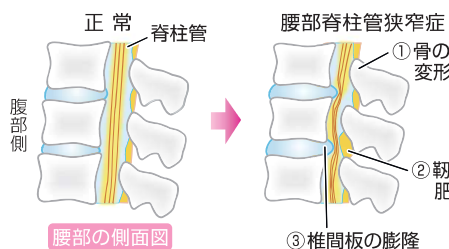


腰部脊柱管狭窄症の内視鏡手術

体の負担少なく、回復早い

腰部脊柱管狭窄症の病態



腰部脊柱管狭窄症は、加齢に伴い腰の骨(腰椎)や周囲の組織が変形し、神経の通り道である「脊柱管」が狭くなることで、神経が圧迫されてさまざまな症状を引き起こす病気です。脊柱管が狭くなる原因には①骨の変形(骨棘の形成)②靭帯(骨棘の形成)③椎間板の膨隆



整形外科講師 熊丸浩仁

からだを 読み解く

九州大病院別府病院の治療・研究

▶17◀

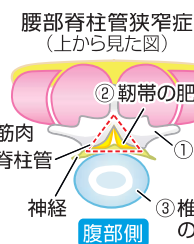
帯(特に黄色靭帯)が厚くなる(肥厚)③椎間板が膨らむ(膨隆)などがあり、これらが重なって神経の通り道を狭めます。

症状として腰痛はそれほど強くないことが多いですが、立っていたり歩いたりすると脊柱管がさらに狭くなり、神経が圧迫されるために、お尻や脚のしびれ・痛み・だるさなどが出て、長く歩けなくなるのが特徴です。しばらく前かがみになって休むと症状が落ちつき、また歩けるようになることがあります。このように、「歩くと悪化し、休むと良くなる」状態を「間欠性跛行」といいます。病気が進行すると、あおむけで寝るのがつらくなり、体を横にして丸めないと眠れなくなるほか、排尿や排便に障害が出ることもあります。

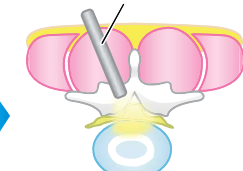
治療の基本は、薬や神経の炎症を抑える治療、リハビリテーションなどの保存

主治医とよく相談を

脊椎内視鏡手術



内視鏡を装着した筒状の器具



器具を挿入し、神経を圧迫している骨や靭帯、椎間板を除去

的治療です。これらで症状が改善しない場合には手術を検討されます。手術では神経を圧迫している骨や靭帯を取り除いて、脊柱管を広げることが目的とされます。近年は医療機器の進歩により、内視鏡を用いた体への負担が少ない低侵襲手術が広く行われるようになってきました。

従来の手術では、5〜10センチほど皮膚を切開し、筋肉を大きく剥がして行う必要がありました。一方、内視鏡手術では2センチほどの小さな切開で、内視鏡を装着した筒状の器具を挿入し、モニターを見ながら神経を圧迫している骨や靭帯を除去します。この方法では手術後の痛みが軽い▽出血が少ない▽回復が早い▽早期退院・早期社会復帰が可能、といったメリットがあります。手術の翌日から歩行訓練を始めることができ、通常は3〜5日で退院が可能です。

ただし、すべての患者さんに内視鏡手術が適しているわけではありません。背骨の変形が強い場合などは、従来の方法の方が安全なこともあります。そのため、主治医とよく相談し、それぞれの手術法のメリットとデメリットを理解した上で治療を選択することが大切です。

脊椎手術は医療機器の進歩により、より安全で体への負担が少ない治療が可能になっています。「歩くと脚がしびれる」「長時間立ってられない」といった症状でお困りの方は、整形外科専門医にご相談ください。